

## 2023 年度事業報告

### <奨学生選抜>

2023年6月に募集要項をホームページに公開後、全国の高校約400校に、新たに基金の紹介パンフレットを加え、募集要項とポスターの三点を郵送した。出願処理の効率を高めるために推薦状、調査書をオンラインでアップロードできる機能を追加した。募集についてオンライン説明会などの広報活動を行い、9月から10月にかけて選抜試験を行なった。応募者数は昨年の96名から88名に減少した。男子が減少し、女子は昨年並みであった。二度の書類選考を経て、25名に対して対面による面接試験を行い最終的に11名を合格者とした。4月までに全員が進学先大学を確定した。合格者は前年度に比べ新規に創設した女子限定の捨松スカラシップ1名が加わった。

### <広報>

広報テーマ「Grew Bancroft Family」に沿って、広報インターン9名が中心となり活動を行った。また12月以降は女性リーダー育成を支援する新奨学金、捨松スカラシップ募金に向けた活動を開始した。5年ぶり仁基金ウェブサイトのリニューアルを行った。YouTube や SNS を通して応募者に対する広報活動を行った。基金の特徴（実績・大学との関係・ファミリー感）を告知することで、受験者数は維持できた。

### <募金>

受け取り寄付金は予算の6千3百万円を上回りほぼ前年度並みの7千1百万円となった。新設の女性リーダー育成を目的とした捨松スカラシップが多くの人々の賛同を得た。長年支援をいただいている大口の寄付者から減額があったが、捨松スカラシップの支援者からの寄付金はその減少を補った。支援者の意思により寄付金のうち約3千万円を捨松スカラシップの原資とする。

### <資金運用>

期末の資産配分は前年と大差はなく、正味財産の57%がドル建ての債券及び短期資金、7%がREIT及びインフラファンド、残りが円債及び円の短期資金となっている。今後4年間の支払い義務のあるドル建て奨学金とほぼ同じ金額をドル建て資産で保有している。資産運用益はドル債とMMFの利息が投資残高の増加、ドル金利上昇と円安効果により増加した。

### <奨学金給付>

奨学生23名に対して8千5百万円（前年度21名に7千3百万円）の奨学金支出を行った。前年度に続き大幅な増加となったが、要因は一人当たりの奨学金支給額の増加および奨学生数の増加に加えて円安による。

